



やっちゃん！桃島さん

DOJIN

R18

成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

ち
こ
ら
ん

花島
さん

やっちゃん！花島さん

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



かばしま しほり
椛島詩保理さん
とは小学校からの
同級生だ

中学に上がる頃から
ほとんど会話する
機会は無かったが

彼女の
胸が

大きく発育してゆく
過程をずっとずっと
見続けてきた





このまま
後悔するよりはと
意を決して
思いを伝えると

奇跡的に彼女は
僕の好意を
受け入れてくれた

栞島さんは押しに
弱い性格で二回目の
デートで性行為をした

妄想の中で何度も犯した
彼女の体を余す所無く
味わった 最高だった

だがこうもすんなり事が
進むということは彼女は
既に誰かに同じように
ヤラれているのだろうか

一瞬憂慮したが彼女の膣から
滴る鮮血がその憂いを洗い
流してくれた
彼女が処女だと理解した瞬間
僕は彼女の膣内で12秒間にも
亘る長い長い射精をした



今日は僕達の学校の
文化祭だ

クラスで作った
ポロシャツが
パツパツになって
彼女の爆乳を
より際立たせている

自分達の当番を
終えたら彼女と
文化祭を回る
デートの予定だ



ダッ…ダメだよ
こんな所でっ…!

もし誰かに
見られたらっ…

椋島さんとデートした日は
今まで欠かさずセックスを
してきたので校内にも
関わらず条件反射でたく
なってしまう

肉欲に脳を支配された僕は
たまらず人気のない教室に
彼女を連れ込んだが
流石に彼女は冷静だった

ダメっ…!

もう
おわりっ…

おわりに
してっ…♡♡

ひとまずは胸だけで
我慢すると嘸いて
校内で彼女の乳房を
露出させしゃぶりついた

ちゃ
ちゃ

湿ってるよこい

彼女はしきりに甘い声で
行為の終了を懇願して
いたが僕の口内で
彼女の乳首はとて
固くなっていた

んんん

も...
も...
も...

ハア

ハア

好きにして...♡

結局我慢できなく
なったのは
椛島さんの方
だった

乳首をピンと反り勃たせ
股間はしっとり湿り
体からは甘い臭いを
立ち上らせていた

もい
もい



ああ、校内で抱く
椛島さんすっげ
いいよッ！

ほっ♡

ポッポッ

ポッポッ

ぐちゃ

ハッ

んんん

結局は文化祭の最中にも
関わらず生ハメ。
大人しく恥ずかしがり屋な
彼女だが意外にも僕と
同程度にセックスに
ハマっているようだった

まあ…これだけ
セックスアピールが強い
体をしているのだから
むしろ当然のことなのかも
しれない

最後に不意打ちで
膣内に出してやると

ん~~~~♡

学校で
精子…

出されちゃった
よあつ…♡♡♡

彼女は学校内で
中出しされたという
状況に興奮したのか
しばらくの間絶頂が
持続し体を震わせていた

僕の思う以上に
彼女は変態なの
かもしれない



事を終えてデートを再開
するとあの椛島さんが
校内で人目も気にせず
手を握ったり
腕を組んだりしてきた

イチャ♡

イチャ♡

むっ…

もちろん僕自身も
悪い気はしなかったが
流石にちょっと
恥ずかしかったかな…

ぎゅ♡



結局イチャイチャが
収まらずに帰りに
ホテルでゆったり
ラブラブH

○○ん
しゅき…♡

僕も柁島さん大好き♡
中で出している？

うん
いいよ♡

先ほどのテンションのままの
柁島さんはかなり積極的
甘い言葉を囁き合いながら
舌を絡ませるキスを何度もした
密着した巨大な乳房感触も
相まり今日は何回でも
射精できると思った

ギンタ

しゅき
しゅき
しゅき

ギンタ

一回戦を終えて少し
離れた所から椀島さんの
裸の全体像を見ると改めて
とんでもない体をしている

ちゅーっ

?

美形ではないが優しく
柔和な癒やし系の顔立ち
大きく柔らかくに実った乳房
脂肪を貯えたふわふわのお腹
丸く大きなお尻から伸びる
むちむちの太もも…全てが
男の本能に訴えかけてくる

たぶーっ

この娘を一刻も早く
孕ませて僕だけのものに
しなければと僕の肉棒は
早くも再びガチガチに
いきり勃っていた



勃起したイチモツを隠しつつ
彼女の背後に回り込んだ
僕は後ろから見る栞島さんの
姿も好きなんだ

な……

なに……？

この丸い肩と広い背中には
無限の母性が溢れているし
うなじから香る栞島さん
特有の体臭：汗の臭いとは
また別の芳醇な匂いを
胸いっぱい吸い込む
ああ早くセックスしたい





むいゅ

興奮した僕はたまらず後ろから
椀島さんの爆乳を鷺掴みにした
思い切り持ち上げると椀島さんの
顔半分が埋もれてしまうほどの
ボリュームだ それほど大きい
にも関わらずとても敏感でこうして
揉むだけで甘い声を漏らしてくれる
最近は何の度に感度が増しているとか…

ちんぽを尻に擦りつけたら
もう我慢できずに即ハメ
椀島さんのおまんこが
また絶品で入り口は
キュッと吸いつきしつかり
ちんぽを飲み込んでゆく

膣内はふわふわの
ヌメヌメで突く度に
うねり熱くなる

そんな絶品まんこをずんずんと力強く
突いていると巨大な乳房が弾む振動が
腕を掴む手から伝わってくる
学生にしてこんな快感を味わえている僕は
前世で相当の善行を積んだに違いない

僕は体位を変えながら
まぐわい続け
なんだかんだで
※ 抜か三をキメてしまった

※ 抜かずに三発

椋島さんの膣内は僕の精液で
たっぷり満ちたことだろう
ここで僕は以前からやって
みたかったあることを
実行することにした：

今日5回目の
種付けえ〜♡

出る出る♡

おっ
うお〜

ズン、ズン、ズン

ピクピク

ズン、ズン、ズン

あ〜♡
あ〜♡
あ〜♡



ほら見て

中出し直後の
しほちゃんだよ

あれ？

もしかして
イッてる？

彼女は中出しに強い興奮を覚える性だったようなので一度彼女の膣から精液がこぼれ出る様子を写真に収めて見せつけてみた効果はテキメンだった画面を見た彼女の顔は一瞬で紅潮し何かを呟きながら絶頂するように体を震わせていた

その様子を見て僕も興奮しさらに3発種を仕込んだその時の彼女の膣は今までで一番熱かった

はっ

セーサー

セーサー

はっ

おまけ

次のページの漫画は
以前SNSで公開した
椛島さんの2ページ母乳漫画です。

それに3ページ描き下ろしを
追加しました。

※シチュエーション先行で描いたもので
椛島さんが普段から母乳が出る子
という訳ではありません。





おしゅちゅ...

ん...

んんっ...♡

ハハハ

ハハハ

きもち
いい...

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

ハハハハハ

トボ
トボ
トボ

あっ
おかわり下さい

ハハハ

直飲み

甘い

うっ

おっ♡

お客様ッ……!

だっ

ダメですっ

お客様ッ……♡♡

じゅわんわん
じゅわんわん

ぎゅぎゅ

きゅん
きゅん

びしょ







あぁ
最高だった

また
来ますね

あつ♡

ありがとお
ございましたあ♡

この後母乳がもっと
いっぱい出るように
なって3ヶ月後
寿退社しました♡



やっちゃん! 花島さん

発行日 令和元年 12月30日

発行 TKジーザス

発行者 茸山しめじ

印刷 丸正インキ様

mail: shimejimushroom@gmail.com

Twitter: [@shimejitakeyama](https://twitter.com/shimejitakeyama)

pixiv: 4509604







ごめんね
ちゅっと遅かった

ハア...

今日は彼とデートで駅前で待ち合わせ
だからシャワーを浴びたり毛の処理を
したりと

ギリギリまで身だしなみに
気をつけてしまって
約束の時間に遅れそうに
なつてしまいました 急いで走っていくと
彼はいつもの笑顔で迎えてくれました
もう結構汗かいちゃったけど大丈夫かな…
だって今日はこの後…



今日は彼女の栞島さんとデート
いつもは時間前に来てる栞島さんが
今日は少し遅れているようだ

辺りを見回していると

少し遠くから一人の女の子が

大きな胸を弾ませながら小走りで

こちらに近づいてくる

僕の彼女だとすぐにわかった

額に汗してまで走ってきてくれる姿がとても愛らしい

今日は暑いのでこのまますぐにホテルに行くと彼女と前から予定していたんだ



ホテルの部屋に入ると彼にシャワーを浴びようと言われました
私が汗くさかったのかなあ…

上着を

脱ぐ

瞬間自分の

汗の匂いを

感じたので

早くシャワーを

浴びたいと思っていたと

急に彼に後ろから抱きしめられました





んっ...

ぴんぽんっ♥

んっ...

ん

ん

もいっや

もいっや

キゅん♥

そして彼は私のお腹のお肉をぎゅうと驚掴みにするんです
そうされると私はお腹の奥がキュンと疼き
体からはまた汗が滲むのを感じます…

そんな
私の
うなじに
ピクンッ♡

彼は顔を
近づけて匂い
を嗅いできます

恥ずかしい…でも私もすでに

彼と同じくらい興奮していました

ムン

ムン

もいゃ

もいゃ

キュン♡

僕は早く彼女の裸が見たくてシャワーに誘った
彼女が上着を脱いで頭になった丸く広い肩と背中に
ブラ紐が食い込んでいるのを見たらすぐに
発情してしまい

ムン

彼女に
抱きつき
汗ばんだ

ピクンッ♡

うなじの匂い
を吸い込んだ

僕は栞島さんの

体臭が大好きだ

シャワーで落としてしまうのは

惜しいがとにかく今は裸を見たいんだ

もいゃ

もいゃ

キュン♡



これは毎回のことだけど一緒にお風呂に入ろうと
服を脱ぐと彼のおちんちは既におっきくなっています…。
でもそこに石鹸を付けて洗っていると
さらに固く…熱く…大きくなっていくんです。
その感覚が手のひらから伝わって
くると私も段々
興奮してきて…♡



花島さんの豊満な肉体は全裸で見るのが一番美しく官能的だ
濡れて煌めく大きな乳房に僕の目は釘付けになっている
しかも彼女は僕のいきりたった性器を甲斐甲斐しく手で洗って
くれている これ以上充実した時間はない。
にも関わらず僕のちんぽは早く挿れたいと
我慢汁をとめどなく
溢れさせている…

い…

い…

っし

っし





気づいたら私はせっつかくきれいに洗ったおちんちんを早速よだれまみれにしちやっついていました♡ 私がこんなにおちんちんを舐めることを大好きになるなんて少し前までは思ってもみませんでした。

それ以上に彼自身のことが大好きだからかな…？

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

ああ〜♡
桃島さん♡

ポタポタ

おちんちんがお口に中でびくんと跳ねたりしよっぱいおつゆ(我慢汁)を出してくれる度に彼のことを愛おしく感じるんです…♡

桃島さんは泡を落とし終わると急にしゃがみこんで僕の亀頭を口に含んだ
かつ：桃島さん！ シャワーのお湯より温かくヌルヌルの口内で舌が裏筋に絡みつく
つい最近まで処女だったとは思えないほど上手になった口淫テクに
僕は思わず腰が浮いて
しまう



大好きな彼女がしてくれるフェラの気持ちよさは情けない声を
漏らしてしまうほどだが今日の一発目は絶対彼女の中で出すと決めていたので必死に堪えた

ああ〜っ
桃島さんっ♡



交代し僕が彼女の
体を洗っていく
どこに触れても

もちもち

フワフワで

とても

心地いい

ん…♡

ぷん

中でも一番柔らかい
のがこの巨大な乳房
持ち上げて重量を感じると
より大きさを実感できる
手のひらから伝わる快感が
股間まで走りより僕の肉棒は固く大きくなっていく…あぁもう我慢できないっ…!!



今度は彼が私の
体を洗って
くれます…
でもおっぱいが
やけに念入りで
触り方も
エッチで…

ん…♡

ぷんっ

それに背中に
ずっと固いモノが
当たってて…
この後の事を想像して
私の乳首も固く
膨らんでしまいました…(恥)





私の全身が熱くなって丁度欲しかったタイミングで
彼は私にエッチなキスをしてくれました
はしたないけど私も彼の舌に貪りつくように
迎え入れてしまいます…♡

たぷ

たぷ

ズン

ズン

はぁ…

んんん

んんん

んんん

んんん

ミッソ

ミッソ

めりゅ

あつきもちいい♡ おっぱいを愛撫されてエッチなキスをされて
お腹に押し付けられた彼のおちんちんの固さと脈動を感じたら
早く彼を私の膣内に受け入れてきもちよくなりたくなってしまいますっ♡

僕は彼女を振り向かせ力強く唇を奪った
彼女もすぐに僕の舌を受け入れねっとりと絡ませてきた
僕も今度はしっかりエッチな触り方で
乳房を揉みしだく

たぶ

たぶ

ズ

ズ

ミ

ミ

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

僕のボルテージもどんどん上がり屹立した陰茎が彼女のやわらかい

お腹の肉にめり込む　これがまるでパイズリされているように気持ちいい

めりや...

やっぱり君は最高の体だよ桃島さん　そして僕にとってこの世で唯一人の最高の女性なんだ



○○○○♡

エッチしよ♡

あゝ...

いっばい
犯して...♡

ハラ
ドドド

ズル
ズル

グン

ハッ

...07

ン

ハッ

お風呂から先に出ただけなのに私はもう彼が恋しくてたまらなくなってしまう
早くあの固いおちんちんを挿れて欲しい：彼と深く強く繋がりたい：！
いっぱいかわいいて言ってもらいながらHなキスして欲しいっ：♡
そんなことを考えてたら興奮して体は汗だく
おまたもぐしよぐしよ…

また汗臭くなっちゃうけど

彼はいつもそんな私の全てを愛してくれます

ああっ○○君大好きっ♡ 早く私を抱いて…っ♡

私は彼に会うまで嫌いだっただ自分の太った身体を自ら曝け出し

お風呂から出た彼にいっぱい愛して欲しいと懇願しました…



栳島さんには先に風呂場から出てもらいこれから彼女の中に入る肉棒をキレイに洗ってから僕も風呂場から出ることにした その瞬間目に飛び込んできたのは僕との性交を待ちわびた栳島さんの姿だった

顔は紅潮し瞳孔は開き

股からは

期待汁が滴り

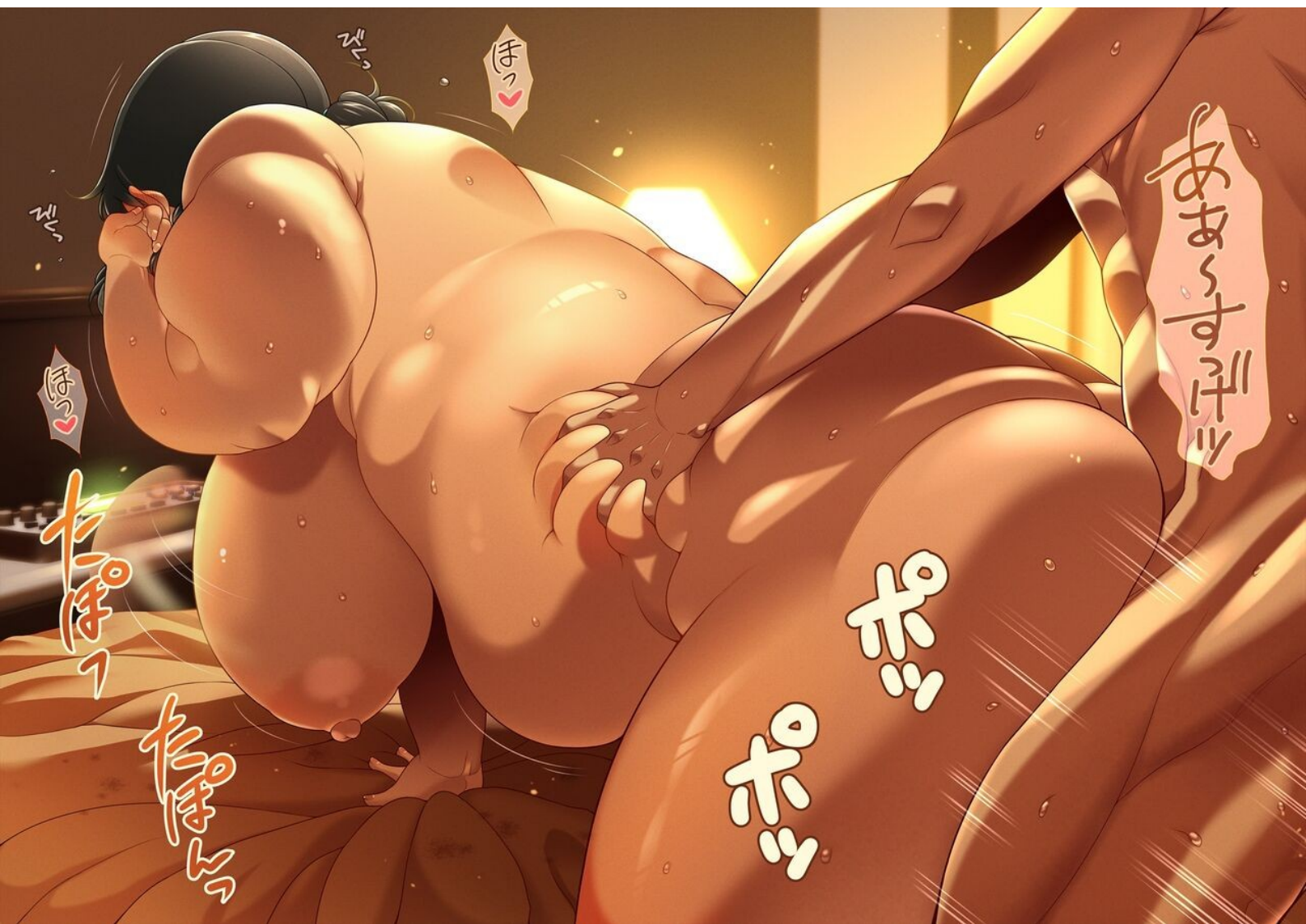
太ももを伝っている

風呂上がりにも関わらず彼女はまたたつぷりと汗をかき

身体からは発情したフェロモンを匂い立たせていた

すぐさま彼女をベッドに押し倒し我慢汁が滴る亀頭を膣口に押し付けた





彼にベッドに組み伏せられた私は早く挿れやすいようにとお尻を高く突き出しました
すると私のアソコが濡れすぎてたのかおちんちんがいつきに奥まで入ってきて
意識が飛びそうになりました♡

ああつすごい♡

普段は優しい彼がこの時だけはおっきい生おちんちんで
容赦なく私のきもちいい所を責め立てます♡

高校生でお生でえっちなんで絶対ダメなのに…
こんなの知っちゃったらもう我慢できないよ…

でも我慢なんてしないでいいのかも…
だってこんなにきもちいい♡
生ハメセックス
きもちいいんだもん♡

ほっ♡

びっ

びっ

ほっ♡

たぽっ

たぽん

ポッ

ポッ



彼女の膣は僕の亀頭に触れるやいなや吸い込むようにヌルンと呑み込む
中はすでにトロトロにたろけていた

大好きな女の子の性器のあまりのキモチよさに勝手に腰が動いてしまう
腰を打ち付ける度に肉と肉がぶつかる音がし
彼女の尻肉が大きく波打つ

彼女は膣奥を突かれる度に
動物のように情けない

喘ぎ声を上げ

僕も快感に情けない声を
上げてしまう

僕たちが今している事は

まさに交尾だ

惹かれ合ったオスとメスが

子孫を作る為に行う

本能的に最高の行為だ

栞島さん

君は絶対僕が

孕ませるよ

ほっ

びっ

びっ

ほっ

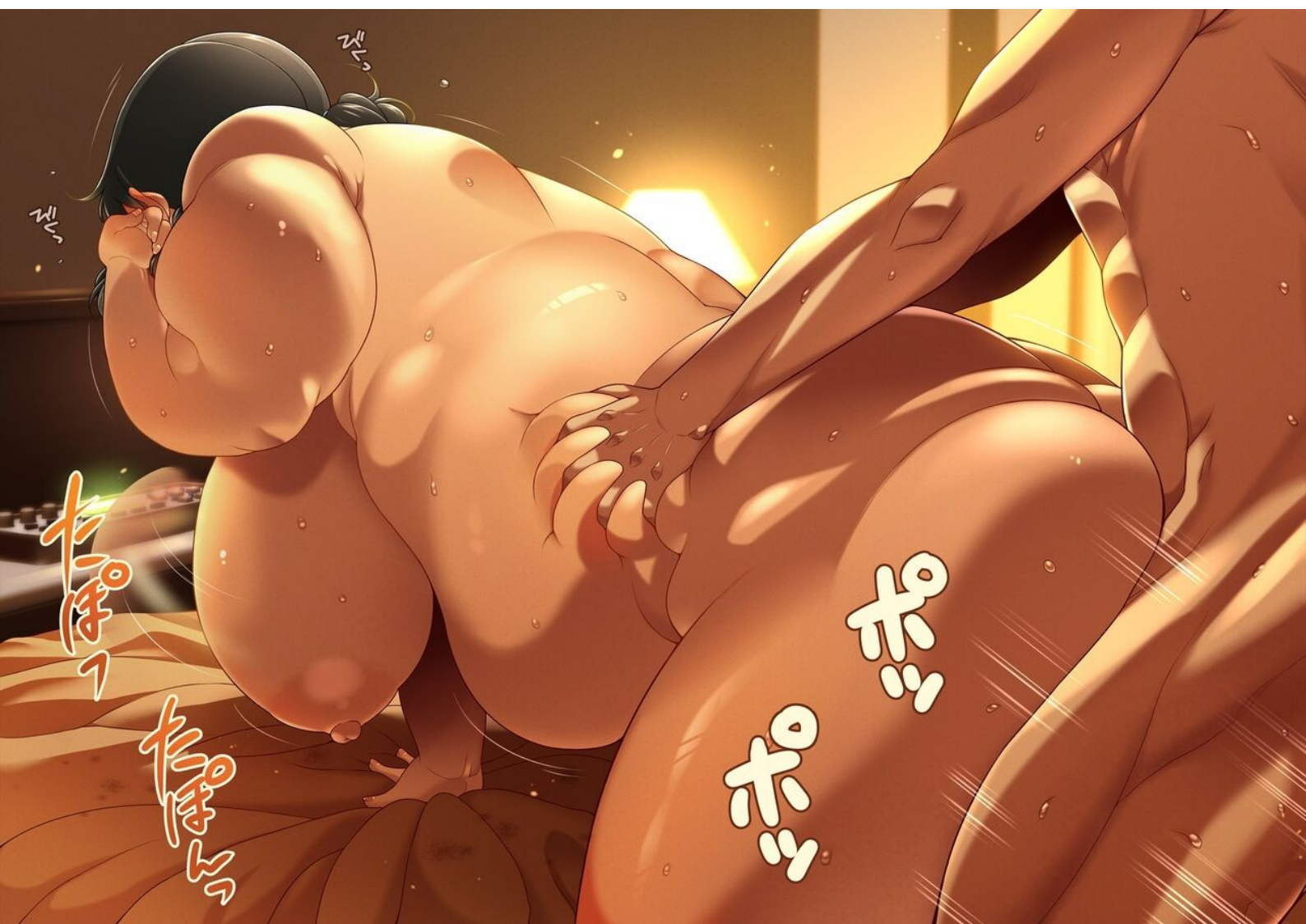
たぽっ

たぽん

ポッ

ポッ







分泌しているのが
自分でも
わかって
いました…

ぼるん

たぽん

www

腰を打ち付ける度に彼女の体は
シャワーを浴びていた時より
もっともっと熱くなつていく……！
この手のひらに伝わる
彼女の体温すら愛おしい

だから
僕は今日も
彼女の奥で
迷わず精液を
吐き出すんだ

ぼるんっ

たぽん



www



寝バックで体重のかかったおちんちんでプレス
されて動物みたいになった
お膣が敏感になってるからか
彼のおちんちんがさらにどんどん
ふくらんでいくのがわかります♡

おおっ♡

うれしいっ♡

彼が私のおまんこで
気持ちよくなっ

てくれているなら

こんなうれしいことは

ありませんっ♡

もういつ中に射精してくれてもいいよっ♡♡♡

●●君の遺伝子…私にだけちょうだいっ♡♡♡

おおっ♡



もうどれくらい性器を往復させたのだろう

最早結合部は熱くてヌルヌルで

僕と彼女の境界がよくわからない

でもとても気持ちよくて

僕の精液は今か今かと

彼女の子宮に入りたがり

すぐそこまで込み

上がってきている

一方奥を突く度に

彼女の子宮口も亀頭に

ちゅうと吸い付いてくる

ような感覚がある

僕が中で出したいように

花島さんも子種が欲しいんだねッ

じゃあ出すよッ 一番奥でッ 本気で孕ませる気でッ

イクッ...うわああああっ...イクウッッッ

おおっ♡

おお♡





ワ

ワ

と

と

と

うわ

うわ

ふあ

出てる



熱いつ 彼のおちんちんが弾むように
痙攣すると同時に私の膣内に熱い
液体が吐き出されました♡
その熱さはおまんこが
焼けるように
感じるほどです♡

ふあ♡

この熱さが
彼がどれくらい
私を好きなのかを
表しているようで
とてもうれしいんです♡

まだビクビクするおちんちんとそこから

注がれ続ける精液、彼の吐息…この余韻を

感じていたくて私は膣をきゅゅと締め付けました

出てる♡



彼女の奥深くで射精した瞬間
快感が全身と脳をかけ巡る
それと同時に達成感征服感
そしてなにより愛情で心も満たされ
最高に最高にきもちいいっ！

ふあ♡

自分でも
信じられないほど
脈動は続き射精は
中々終わらない

いじらしく吸い付いて離さない

彼女のおまんこに全てもつていかれる勢いだ

いいよ椛島さんッ…全部受け止めてッ！

出てるっ♡

僕はしっかり精子が子宮まで行き渡るようしばらくハメたまま汗だくの背中に何度もキスをした





スー...

スー...



スー...

スー...

ハア...

ハア...

んんん!!

んん

んん

んん



んー3...

ん...

何...

ハア...

ハア...

あれからも何度もお互いを
求めあい栳島さんは
ほとんど失神する
ようにして眠って
しまった
僕は寝ている
彼女の乳首を
舐って
いると
ん...

再びムラムラしてきて
彼女の肢体をおかずに肉棒を
しごきぶっつけた もう散々
射精した後にも関わらず僕の精液は

しっかりと白く濁っていた...

ハア...

ハア...

私はいつの間にか

エッチの間に

眠っちゃった

みたい…

ごめんね…でも

●君が絶倫

すぎるんだよ…♡

ん…

うん…

起きると私のおっぱい

からほんのりと彼の精液の

香りがしました なんでも

寝てる間に一人で胸に出したみたい…

ハア…

ハア…

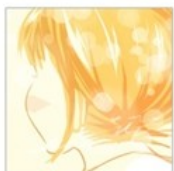
もう…

どうせなら膣内に

出してくれても良かったんだよ？



おわり



平田 京子

8月5日 15:30 Facebookより

海行ったらチョー久しぶりにしほちゃんに会った☆
相変わらずオッパイすごい！！！！Σ(° o° ;



いいね！・コメントする・シェア

👍 3

小学校の頃から胸が大きくて気になってたぽっちゃり同級生を
5年ぶりくらいにFacebookで見かけたい

1...2...3...あれ？
ブラのホック増えた？

...

ってことはまた
大きくなった？

うん...

すげえ！
ユニバーサルじゃんツ！

ニキッ...









おっぱいに刺
さるの……

とちう一番大きい
サイズですが
いかがですかー？

パイザリ？

パイザリって何？

？

キちゃんさん。

将棋のお話？



しっ…そういう意味
だったの…？

んっ…やだっ…
もう絶対言わないよー！



アハハハ...

私には

あんな様もある

いふことかなにけだ...

415



アハハハ...

私には

あんな様もある

いふことかなにけだ...

415









ぴんぽん♡

フ...
フ...

ムン

ムン

もいゃ

もいゃ





これは毎回のことだけど一緒にお風呂に入ろうと
服を脱ぐと彼のおちんちは既におっきくなっています…。
でもそこに石鹸を付けて洗っていると
さらに固く…熱く…大きくなっていくんです。
その感覚が手のひらから伝わって
くると私も段々
興奮してきて…♡



花島さんの豊満な肉体は全裸で見るのが一番美しく官能的だ
濡れて煌めく大きな乳房に僕の目は釘付けになっている
しかも彼女は僕のいきりたった性器を甲斐甲斐しく手で洗って
くれている これ以上充実した時間はない。
にも関わらず僕のちんぽは早く挿れたいと
我慢汁をとめどなく
溢れさせている…

い…

い…

っし

っし









気づいたら私はせっつかくきれいに洗ったおちんちんを早速よだれまみれにしちやっついていました♡ 私がこんなにおちんちんを舐めることを大好きになるなんて少し前までは思ってもみませんでした。

それ以上に彼自身のことが大好きだからかな…？

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

ああ〜♡
桃島さん♡

おちんちんがお口に中でびくんと跳ねたりしよっぱいおつゆ(我慢汁)を出してくれる度に彼のことを愛おしく感じるんです…♡

ポタ
ポタ

桃島さんは泡を落とし終わると急にしゃがみこんで僕の亀頭を口に含んだ
かつ：桃島さん！ シャワーのお湯より温かくヌルヌルの口内で舌が裏筋に絡みつく
つい最近まで処女だったとは思えないほど上手になった口淫テクに
僕は思わず腰が浮いて
しまう

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

ああ〜っ
桃島さんっ♡

大好きな彼女がしてくれるフェラの気持ちよさは情けない声を
漏らしてしまうほどだが今日の一発目は絶対彼女の中で出すと決めていたので必死に堪えた

ポタ
ポタ











彼とお風呂に入ると
いつも私の体を
洗ってくれます…

特におっぱいを
念入りに洗って
くれるから…

ん…♡

終わる頃には
私の乳首は固く
膨らんでしまつて…

そのままお風呂で
一回目のエッチを
してしまうことも
しよっちゅうです…





たっ...

おっ...

たっ...

おっ...

たっ...

おっ...

たっ

たっ

しゅ

しゅ

めしゅ...

めしゅ...

めしゅ...

私の全身が熱くなって丁度欲しかったタイミングで
彼は私にエッチなキスをしてくれました
はしたないけど私も彼の舌に貪りつくように
迎え入れてしまいます…♡

たぷ

たぷ

ズン

ズン

はぁ…

んんん

んんん

んんん

んんん

ミッソ

ミッソ

めりゅ

あつきもちいい♡ おっぱいを愛撫されてエッチなキスをされて
お腹に押し付けられた彼のおちんちんの固さと脈動を感じたら
早く彼を私の膣内に受け入れてきもちよくなりたくなってしまいますっ♡

僕は彼女を振り向かせ力強く唇を奪った
彼女もすぐに僕の舌を受け入れねっとりと絡ませてきた
僕も今度はしっかりエッチな触り方で
乳房を揉みしだく

たぶ

たぶ

ズン

ズン

ミクン...

ミクン...

はあ...

ミクン

はあ...

ミクン

僕のボルテージもどんどん上がり屹立した陰茎が彼女のやわらかい

お腹の肉にめり込む これがまるでパイズリされているように気持ちいい

めりゅ...

やっぱり君は最高の体だよ桃島さん そして僕にとってこの世で唯一人の最高の女性なんだ





栳島さんには先に風呂場から出てもらいこれから彼女の中に入る肉棒をキレイに洗ってから僕も風呂場から出ることにした その瞬間目に飛び込んできたのは僕との性交を待ちわびた栳島さんの姿だった

顔は紅潮し瞳孔は開き

股からは

期待汁が滴り

太ももを伝っている

風呂上がりにも関わらず彼女はまたたつぷりと汗をかき

身体からは発情したフェロモンを匂い立たせていた

すぐさま彼女をベッドに押し倒し我慢汁が滴る亀頭を膣口に押し付けた





○○○○っ♡

エッチしよっ♡

あゝ...

いっばに
犯してっ...♡

ハラ
ドドド

ズル
ズル

グン

ハッ

...ッ

ン

ハッ



ハラハラ

グン

ズルズル

グン

ズルズル

ズルズル

ズルズル











寝バックで体重のかかったおちんちんでプレス
されて動物みたいになったおちんちんでプレス
お股が敏感になってるからか
彼のおちんちんがさらにどんどん
ふくらんでいくのがわかります♡

おおお♡

うれしい♡

彼が私のおまんこで
気持ちよくなっ

てくれているなら

こんなうれしいことは

ありません♡

もういつ中に射精してくれてもいいよ♡♡♡

●●君の遺伝子…私にだけちょうだい♡♡♡

おお♡



もうどれくらい性器を往復させたのだろう

最早結合部は熱くてヌルヌルで

僕と彼女の境界がよくわからない

でもとても気持ちよくて

僕の精液は今か今かと

彼女の子宮に入りたがり

すぐそこまで込み

上がってきている

一方奥を突く度に

彼女の子宮口も亀頭に

ちゅうと吸い付いてくる

ような感覚がある

僕が中で出したいように

花島さんも子種が欲しいんだねッ

じゃあ出すよッ 一番奥でッ 本気で孕ませる気でッ

イクッ...うわああああっ...イクウッッッ

おおっ♡

おお♡













スー...

スー...



スー...

スー...

ハアッ...

ハアッ...

んんん!!

んん

んん

んん



んー3...

ん...

四回木...

ハア...

ハア...

あれからも何度もお互いを
求めあい栞島さんは
ほとんど失神する
ようにして眠って
しまった
僕は寝ている
彼女の乳首を
舐って
いると
ん...

再びムラムラしてきて
彼女の肢体をおかずに肉棒を
しごきぶっつけた もう散々
射精した後にも関わらず僕の精液は

ハア...

ハア...

しっかりと白く濁っていた...

私はいつの間にか

エッチの間に

眠っちゃった

みたい…

ごめんね…でも

●君が絶倫

すぎるんだよ…♡

ん…

うん…

起きると私のおっぱい

からほんのりと彼の精液の

香りがしました なんでも

寝てる間に一人で胸に出したみたい…

ハア…

ハア…

もう…

どうせなら膣内に

出してくれても良かったんだよ？







